

Title	表紙・目次ほか
Author(s)	
Citation	史林 = THE SHIRIN or the JOURNAL OF HISTORY (1972), 55(1)
Issue Date	1972-01-01
URL	http://hdl.handle.net/2433/238062
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

一九七二年二月二十五日
発行刷



第55卷 第1号

史学・地理学・考古学

論 説

宋代茶法の一考察……………梅原郁 (1)

地域研と地域権力……………村田修三 (38)

シュトラスブルク改革運動について……………富木健輔 (77)
——職権的改革 Magisterial Reformation への道——

書 評

市古宙三著『近代中国の政治と社会』……………神戸輝夫 (120)

紹 介

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

記 集 編

第五五卷第一号を期して、少しく『史林』の体裁も替えてみることにした。御覧のように論説部分は一組にした。出来上った感じは、我田引水でなければ案外綺麗であったと自負している。どうも小さな版の雑誌で、しかもこの位の活字で腹一文字にかき切られたような組みは、紙面が全体として白っぽい感じで気になっていた。そんな意見もまえからあったのだが、因襲というものは簡単なことを替えるにも意見のなかなか揃わぬものである。今度思い切ってやってみた。もっと小さな活字であればまた考えようもあったらう。しかし、なかに美とするかは客観的規準があるわけではない。人びとの好みというほかならう。客観的根拠があるといえは、こう組むほうが値段が若干安くなるというはなしであった。そしてこの根拠は、当今學術雑誌を出してゆく台所を考えた場合、案外とゆるがせにできないのである。その点御諒承頂ければと思う次第である。そのかわりといつては何だが、いままでの中質紙に比べて紙質はそれだけよくなったはずである。いろ

いろこういう点も今後勉強してゆきたいと考えている。念のため、以上のことはすべて昨年秋の総会で御諒承を頂いたことで、やつと実行の段階に漕ぎつけたばかりである。

さて、紙面のバラエティーである一段、二段、三段のそれぞれの組みを、今後どう運用してゆくかは、一に編集委員の責任にある。一段、三段の部分はまあよいとして、とくに二段の部分では、われわれの意図としては、向うの雑誌などといわゆる《Debatte》が欲しいのである。あるいはそれを含んだ学界動向・史料紹介などが望ましい。一段組を二段におとしただけで、その間境界のはつきりしないものは、本当の意味では「ノート」欄にはいるものではなからう。しかし、そういう意味での原稿の依頼が、これまたはなはだもってむずかしい。なんとか御協力をお願いしたいものである。書評と紹介は、将来あるいは一緒にまとめるべきかも知れない。いつからかこうなつたが、はじめは少なくともそうだった。それとこれももっともつと数を多くしたいのであるが、これがまたなかなかそうはいかぬ。

この点も併せて御願したいものである。その他紙面についての工夫はいろいろある。御意見お寄せ頂ければ幸せである。なお、御願いしながら口幅つたいことだが、注の出し方、横文字本の表記の仕方等々、いちおう定形があると思うので、どうか御留意頂いて、われわれの仕事を軽からしめて頂ければと願いついでにこれもお願いしたい。末筆ながら本号に力稿をお寄せいただいた先生方には心から御礼申し上げる。

(越智記)

一九七二年二月二十五日印刷
一九七二年一月一日発行 定価三五〇円

史 林 (第五五巻第一号)

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

発行人 史 学 研 究 会

理事長 羽 田 明

京都市下京区西七条御所ノ内中町五〇

印刷所 中村印刷株式会社

THE SHIRIN
or the
JOURNAL OF HISTORY

Vol. LV, No. 1

Jan., 1972

CONTENTS

Articles :

A Study of Sung 宋 Tea Policies*K. Umehara* (1)

Local Measures 地域柄 and Local Authorities*S. Murata* (38)

The Reformation Movements in Strasburg :
The Way to the Magisterial Reformation*K. Tomimoto* (77)

Book Review :

C. Ichiko, *A Political and Social History
of Modern China**T. Kanbe* (120)

Miscellaneous :

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(The Society of Historical Research)

Kyoto University, Kyoto, Japan